日本看護図書館協会機関誌『看護と情報』に関する調査・分析　－計量書誌学的観点とアンケート調査－

杉本節子
武庫川女子大学人文学科（非常勤講師）

日本看護図書館協会の機関誌である『看護と情報』に関するアンケート調査及び計量書誌学的分析結果を発表する。

研究内容は、１）1994 年～2004 年の同誌について、記事主題等の属性と値、執筆者属性等の計量書誌学的手法による実態分析、２）2004 年実施の団体会員、個人会員、未加入の看護系大学図書館へのアンケート調査分析の２つからなる。

この分析結果から、同誌の内実の経年変化を明らかにすると共に、同誌の購読者・未購読者層の情報ニーズの観点も踏まえて、今後の同誌の将来の編集方向性を考察した。

１．　日本看護図書館協会会員への『看護と情報』に関するアンケート調査（回収率 82%）
- アンケート調査対象者
- 主なアンケート調査分析結果
- 主なアンケート調査分析結果と『看護と情報』の記載記事との比較

２．　『看護と情報』非購読者の看護系大学図書館へのアンケート調査（回収率 77%）
- アンケート調査対象者
- 日本看護図書館協会に加盟していない理由
- 今後の購読の意志

３．　計量書誌学的分析

（１）『看護と情報』における執筆者、掲載論文、引用雑誌、論文等の分析結果

記事内容は会員の要求をほぼ満たしており、会員が仕事や知識を高めるために必要とする情報を『看護と情報』から得ていることが明らかになった。また、会員の多くが専門職としての自己研鑽の必要性を感じ、どうすれば良いかを模索していると同時に情報発信の重要性を認識していることが判明した。

（２）『医学図書館』（1994～2004）の論文の引用雑誌分析結果

特集内容と引用雑誌の計量書誌学的分析を行った。

４．　『看護と情報』の実証的分析
- 『看護と情報』と『医学図書館』の特集記事内容比較と引用雑誌比較

５．　結論

『看護と情報』が看護系図書館員にとって、基本誌となるためには、何が必要かを考察し、更に問題解決の方法を提示し、以下の３つの論点を導き出し結論とした。
- 速報性----　『看護と情報』の発行回数の増加の可能性を検討
- 専門性----　レベルの高度化、専門化の必要性
- 会員の情報発信の場の提供